

日本帰国後の教育

日本への帰国準備と帰国後の教育についての情報



新指導要領

小学校 5・6 年生の英語教育

外国語教育を充実します

小学校における「外国語活動」の導入をはじめとして、小・中・高等学校を通して外国語（英語）教育の充実を図っています。

小学校 5・6 年生で「外国語活動」を導入します。

- 平成 23(2011) 年度から、小学校 5 年生と 6 年生で週 1 時間（年間 35 時間）の「外国語活動」を導入します。
- 中学校や高等学校における外国語科の学習につながるように、「コミュニケーション能力の素地」をはぐくむこととしています。

＜小学校外国語活動の目標＞

- ① 言語や文化に対して体験的に理解を深めること
 - ② 積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成すること
 - ③ 音声や基本的な表現に慣れ親しませること
- あいさつや買い物、子どもの遊びなどの身近なコミュニケーションの場面を設定して、外国語を聞いたり話したりする音声面の活動を行います。

出典：文部科学省「生きる力」保護者用パンフレット（平成 22 年作成）
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/pamphlet/_icsFiles/afieldfile/2010/09/13/1234786_1.pdf

ここに紹介したのは、文部科学省が作成した外国語活動の保護者向けの案内です。小学校での英語活動（英語の授業ではありません）は、これまで多くの学校で試行されてきました。そこで報告されている指導内容を踏まえての活動目標ですので、大きな変更はみられません。

4 月からは、英語活動が正規な授業となりますので、文部科学省は「英語ノート」を作成しました。この日本全国で使用する共通教材は、教科書ではなく、あくまで補助教材ですので、これを教材として使用するかどうかはそれぞれの自治体や学校の判断に任されています。しかし、2010 年度に文部科学省より全国の小学校に配布されたこの「英語ノート」が、全国の多くの担任教師が授業を行う際の道しるべ、教科書代わりに使用されています。（松本）



長野県

公立中高一貫校 関心高く

2012 年度に、長野県初の公立中高一貫校として開校する県立屋代高校附属中学（仮称、千曲市屋代）で、昨年 12 月 11 日に入学選抜のための適性検査の「試行」が実施されました。

公立の中学校では、私立中学のような「学力検査」の実施が禁止されているので、適性検査と面接で合格者を決めます。今回の試行検査は、適性検査の内容を理解してもらうことなどを目的として、実施されました。

出題範囲は、6 年生 2 学期までの学習内容で、文章などの読解力や表現力をみる検査と、筋道を立てて考える力や数理的な処理力をみる検査が 50 分ずつ行われました。

小学校 5・6 年生を検査定員 260 名として募集したところ、2.6 倍もの希望者があり、抽選で受検者を決めて実施されました。

出典：<http://www.yomiuri.co.jp/e-japan/nagano/news/20101211-OYT8T00807.ht>



1 年後に開校する公立中高一貫中学の適性試験の“模擬試験”は初耳です。さらに、その模試に定員の 2.6 倍もの受検希望者が集まったとの報道です。この報道から、公立中高一貫校、それも地方都市での人気の高さが分かります。

中高一貫教育校の設置は 1999 年度から始まりました。2009 年 4 月現在で、設置済 370 校（公立 166 校・私立 197 校・国立 5 校・その他 2 校）、また設置予定 33 校（公立 18 校・私立 15 校）となっています。

都道府県での設置状況を見ると、設置済は 44、設置予定 1（長野）、設置予定なし 2（山形・鳥取）で、日本全国にまんべんなく広がっているのが分かります。ちなみに、長野県は 47 都道府県中、45 番目の設置県となる予定です。

公立一貫教育校の中学入試の競争倍率（2010 年度）は、中等教育学校で 3.5 倍、併設型で 4.1 倍になっていました。

また、今年度の東京都立中高一貫教育校 10 校の平均応募倍率は 7.46 倍、2 校では 9 倍を越えた、との報道もありました。公立中高一貫校の人気の高さが続いています。（松本）